

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	健全な財政運営	コード	作成者	役職	財政課長
		06-10-45		氏名	佐藤行弘
			電話	0869-64-1810	
			このシート作成に要した時間	1.5 時間	

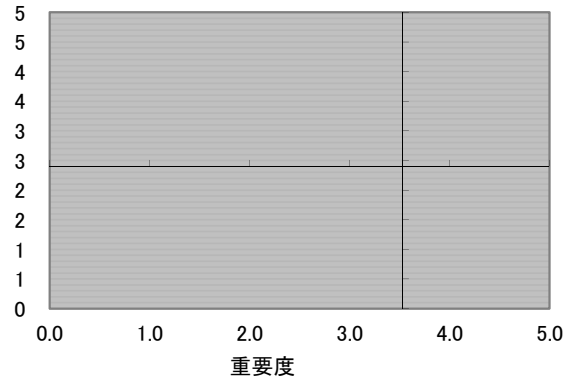
この施策の アピール ポイント	健全財政を将来世代へ引き継ぐことを目指しています。
-----------------------	---------------------------

この施策の 平成25年度の 施政方針	<p>国の平成25年度予算は、日本経済の再生に向けた緊急経済対策に基づく24年度補正予算から連続する15か月予算として編成され、5月15日に成立いたしました。その内容としては、インフラの老朽化対策や防災対策など国民の命と暮らしを守る公共事業予算を充実させる一方、財政の健全化を着実に推進するため、借入金が増えることのないよう、改善に向けた目標が反映されたものとなっております。</p> <p>本市におきましては、これまで、道路・橋梁、河川改良、上下水道などの社会資本を整備してまいりましたが、過去に発行した市債に対する多額の償還が大きな財政負担となっています。また、老朽化が進むインフラを今後も継続して使用するため、計画的に大規模な改修を行う必要があります。さらに、急務となっている学校施設の耐震化、子育て支援、高齢者、障がい者への支援など、行政需要の拡大に伴い、財政規模はここ数年増大を続けています。</p> <p>一方、歳入では、景気の緩やかな回復基調を受けて、本年度の法人市民税を前年度当初比で20.8パーセント増と見込んでいるものの、今後は高齢化や人口の減少による個人市民税の減少や27年度から始まる普通交付税の合併優遇分の減少など、将来大幅な歳入不足となる要素を抱えています。このため、事務事業の見直しや統合、効率的な施設運営による経費の圧縮・削減を徹底し、大幅な歳入の減少にも耐えられる歳出構造への転換を早急に図る必要があります。また、本市の23年度決算による実質公債費比率は17.4パーセントと改善しつつありますが、県内都市や類似団体と比較すると依然として高率であり、健全財政にはなお一層の改善が求められています。さらに財政の弾力性の指標となる経常収支比率は、23年度決算で93.8パーセントと非常に高率であり、慢性的に硬直した財政運営を早急に改善しなければならない状況にあります。</p> <p>そのため、市税、使用料等の取納率向上対策を着実に実践するとともに、適正な受益者負担の設定、企業誘致や定住化促進による新たな自主財源の確保に取り組みながら、行政経費の徹底した削減、合理化により財政収支の均衡を図ってまいります。</p> <p>また、将来を担う若者たちが、ゆとりある健全財政のもと、自らの選択で自らのまちを築くことができるよう、将来への先送りを増やすことなく、また、基金の取崩しに頼ることのない安定した財政基盤の構築に取り組んでまいります。</p>
--------------------------	--

＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	行政「計画推進」
	基本計画（中項目）	計画を実現する行政
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	将来にわたって安定した行政サービスを提供するとともに市民福祉の向上を図るため、各種施策が計画的、効率的に実行できるよう財源を確保する。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	歳入は、人口減少、景気の低迷、固定資産評価額の下落等により市税の伸びは期待できない。歳出は、今後見込まれる各種事業の実施により、収支不足が懸念されるところである。このため、早急に歳入に見合った歳出構造へ転換し、安定した財政構造を構築していく必要がある。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分担金、負担金、使用料、手数料の見直し、滞納対策の強化 ・ 職員のコスト意識を高める ・ 類似事業の集約化とスクラップアンドビルド ・ 計画的な基金の積立、市債などの後年度負担の軽減 ・ 指定管理者制度、PFI事業、ボランティアなどの民間の活力・経営ノウハウの導入 ・ 民間の会計手法によるわかりやすい財政状況の公表 	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度



調査結果に対するコメント、市民の反応等	今後も健全な財政運営を望む意見が多い。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H23	H24	H25				
成果指標 実質公債費比率	目標	%	18.0	18.0	17.0	公債費（一般会計、特別会計への繰入金、一組への負担金、債務負担）の標準財政規模に対する割合	H26	16.0
	実績	%	17.6	16.4	15.9		H28	16.0
	達成率	%	97.8	91.1	93.5		H34	15.5
	ベンチマーク		18.0	18.0	18.0			—
参考指標 経常収支比率	目標	%	90.0	90.0	90.0	経常経費充当一般財源／経常収入一般財源×100	H26	90.0
	実績	%	93.8	90.6	91.4		H28	90.0
	達成率	%	104.2	100.7	101.6		H34	90.0
	ベンチマーク		89.0	89.6				—
参考指標 ①	目標					類似団体の平均値	H26	
	実績						H28	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク							—
参考指標 ②	目標						H26	
	実績						H28	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク							—
参考指標 ③	目標						H26	
	実績						H28	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク							—

⑦ 目標達成に必要な新規事業（裏面 施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
総務課	定員管理事務事業	人件費の削減
税務課	市税等徴収事業	自主財源の確保
各課	滞納がある収入の徴収事業	財源確保

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い
		判断理由 (なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	5	県下都市の中でも高い実質公債費比率、経常収支比率の改善を目指しているため、成果指標としては妥当である。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	4	義務的経費である地方債の支払いが主なものであり、妥当である。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	実質公債費比率は、達成可能であると考えられるが、経常収支比率は、経常収入一般財源の増減に左右されるため、達成の見込みは不透明である。
進行年度(H26年度)の取組内容(課題解決状況)		26年度は、学校施設耐震化事業、東備消防組合消防無線デジタル化事業負担金などにより市債の発行額が償還額を上回り、市債残高が増加する見込みである。このため、銀行等引受債のうち繰上償還によって交付税算入に影響のないものの繰上償還を、引受銀行等と交渉し実施する。
翌年度(H27年度)の取組目標		27年度以降も、銀行等引受債のうち繰上償還によって交付税算入に影響のないものの繰上償還を、引受銀行等と交渉し実施する。

施策構成事務事業の評価

施策を構成する 事務事業	細事業	事業 分類	事業費等（単位：千円，人）										施策への 貢献度
			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度	
			直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	当初予算	
01 財政管理事業	財政管理事業		309	29,623	3.55	278	28,695	3.68	240	31,663	3.83	537	☆☆☆☆☆
	地方債管理事業（事務費）		16	1,668	0.21	0	4,049	0.51	7	3,804	0.48	19	☆☆☆☆☆
	地方債管理事業（元金償還）		1,858,749	159	0.02	1,723,737	79	0.01	1,703,326	79	0.01	1,560,399	☆☆☆☆☆
	〃		4,085			4,417			848	0	0.00	574	☆☆☆
	〃		283			291			300	0	0.00	314	☆☆
	地方債管理事業（利子償還）		278,034	159	0.02	256,545	79	0.01	236,726	79	0.01	237,717	☆☆☆
	〃		524			361			144	0	0.00	114	☆☆
02 基金積み立て事業	財調・減債基金積立事業		0			0			0	0	0.00	0	☆
		財調・減債基金積立事業		61	0.01		61	0.01		158	0.02		☆☆☆☆
この施策に費やした資源（単位：千円，人）			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度	
			2,142,000	31,670	3.81	1,985,629	32,963	4.22	1,941,591	35,783	4.35	1,799,674	